

第65期 中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は平成24年9月30日をもちまして、第65期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の中間期を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当中間期の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、震災からの復興需要等を背景として、緩やかな回復傾向にあるものの、世界経済の減速や円高の影響を受け、低調な動きとなりました。その世界経済も、米国では緩やかな回復傾向が続いていますが、欧州では財政危機の影響により景気低迷のリスクも存在し、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況下において、当社グループは収益性の改善と光ディスクドライブ事業の改革を方針とした事業計画を遂行中であり、当中間連結会計期間における売上高は97億4千万円（前年同期比24.5%減）と大幅な減収となりましたが、営業損失は4億6千9百万円（前年同期営業損失4億3千8百万円）と赤字幅は若干の増加にとどまり、経常損失は6億1百万円（前年同期経常損失6億8千4百万円）と減少いたしました。また、中間純損失は特別損失の計上により7億4千6百万円（前年同期中間純損失6億7千5百万円）となりました。



代表取締役社長
英 裕治

連結業績ハイライト

		第62期	第63期	第64期	第64期(中間)	第65期(当中間)
		平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成23年9月期	平成24年9月期
売上高	(百万円)	40,739	36,867	26,696	12,857	9,704
営業利益	(百万円)	554	1,003	338	△438	△469
経常利益	(百万円)	31	348	19	△684	△601
当期純利益	(百万円)	64	△1,303	89	△675	△746
1株当たり当期純利益	(円)	0.22	△4.52	0.31	△2.34	△2.59
総資産	(百万円)	26,933	21,289	19,637	18,976	17,892
純資産	(百万円)	5,805	3,824	3,790	2,491	2,431

オンキヨー株式会社との資本・業務提携の経過状況について

当社は平成24年1月にオンキヨー株式会社と資本・業務提携を行い、販売の拡大、製品付加価値の向上、製品競争力の強化や新市場の開拓等においてシナジー効果を創出し、安定した業績の実現を目指して種々の検討協議を行っておりますので、具体的な施策の経過状況につきましてご報告申し上げます。

-
- ・ 販売部門においては、欧州地域での販売強化、事業の効率的運営を目的として、同社ドイツ子会社に当社のドイツ、英国販売子会社の一般 AV 機器（TEAC ブランド）、高級 AV 機器（ESOTERIC ブランド）の音響機器事業を事業譲渡いたしました。11月末には資本参加を行い、また、役員派遣を行うことにより同社ドイツ子会社の経営に参画することを予定しております。また、国内においても連携を開始し、国内販売チャネルの再編と営業力強化を進めております。
 - ・ 設計部門においては、同社設計子会社に資本参加し、設計・開発・技術支援業務を受託する会社として共同で運営を行い、両社の技術的な強みを活かした開発力の強化および設計・開発における効率化を進めてまいります。
 - ・ 年末商戦に向け、同社の設計資産を活用した製品の供給を受け、欧米を中心とする海外市場へ導入を開始しました。
 - ・ 購買部門においては、今後は同社設計子会社にて共同設計を進めることで、部品・プラットフォーム共通化のスピードアップならびに原価低減効果の拡大が見込まれます。また、生産部門では、製品特性や消費地に応じて、両社の生産拠点、外部生産委託拠点から最適地を選定することにより、原価およびリスクの低減を図ってまいります。
 - ・ 物流部門においては、欧州地域での倉庫の一元化を完了し、倉庫料・荷役料の削減を見込んでおります。また、国内においても共同配送を開始し、輸送費の削減を進めております。
 - ・ 情報システム部門においては、両社の国内データセンター・ネットワークを統合し、同社から当社子会社への資本参加、情報システム部門の移管を受け、IT 業務を集約させることにより、今後の ICT コストの低減を見込んでおります。

今後も各事業や各業務分野における協業の検討を継続し、さらなる企業価値向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

音響機器事業

インテグレートッドアンプ



プロスタジオ用パワーアンプ設計のノウハウを投入し、オリジナルマスターに刻まれたアーティストの息吹きをあますところなく再現します。

フルアナログ・デュアルモノラル・ヘッドホンアンプ



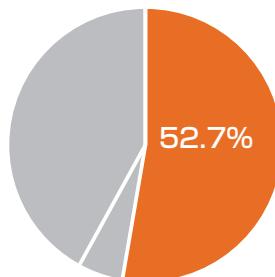
ヘッドホンの潜在能力を引き出し、最適かつ最高のサウンドでヘッドホンリスニングを楽しんでいただくために、徹底的にこだわった仕様を随所に散りばめています。

放送業務仕様 CD プレーヤーシステム



長年に亘る業務用音響機器開発のノウハウと、現場フィードバックをもとに耐久性、運用効率、操作性、そして高音質を追求した放送業務仕様の CD プレーヤーシステムです。

売上高構成比



売上高	5,118 百万円
	(前年同期比 11.1%減)
営業損失	△ 58 百万円
	(前年同期営業利益 54 百万円)

高級 A V 機器 (ESOTERIC ブランド) は、スーパーオーディオ CD プレーヤーの販売が引き続き堅調に推移し、また、中に投入したクロックジェネレーター、インテグレートッドアンプの新製品も好調に推移しました。

一般 A V 機器 (TEAC ブランド) は、欧州での景気後退により販売が減速しましたが、日本では P C オーディオ関連製品を中心に販売が好調に推移し、中に投入したハイエンドヘッドホンアンプも好評を博しました。

音楽制作オーディオ機器 (TASCAM ブランド) は、景気の停滞により欧米での販売が減少しましたが、日本国内においては、設備音響機器、放送局向け機器を中心に販売は好調に推移しました。

また、オンキヨー株式会社との業務提携の一環として、本年 6 月より欧州における ESOTERIC、TEAC ブランド製品の販売をオンキヨー株式会社欧州現地法人に委託いたしました。これを受け、当社欧州現地法人において構造改革を実施した結果、当中間連結会計期間ではそれに伴う費用が発生しました。なお、この費用は第 3 四半期以降に見込まれる販管費削減効果により、通期では収益面でプラスに作用するものと見込んでおります。

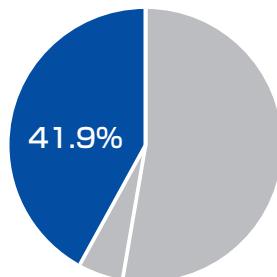
この結果、音響機器事業全体では、円高の影響に加え、欧州における構造改革での一時的な影響により減収となり、営業損失を計上しました。

情報機器事業

売上高 4,070 百万円
(前年同期比 38.9%減)

営業損失 △ 412 百万円
(前年同期営業損失△ 447 百万円)

売上高構成比



航空機搭載記録再生機器は安定した販売を維持し、ストックビジネスである保守パーツ販売も堅調に推移しました。

計測機器は、データレコーダーの販売が堅調であったものの、センサー関連においては半導体製造装置向けロードセルの販売が不振に終わりました。

医用画像記録機器は DICOM 対応製品の販売が好調に推移し、また、通話録音機器もシステムインテグレーターとの連携強化により好調に推移しました。

ソリューションビジネスは、前年同期並みに推移しました。

光ディスクドライブは、収益性の低いパソコン向け販売を抑制したに加え、光ディスクドライブ市場の需要減により、大幅な減収となりました。

この結果、情報機器事業全体では、光ディスクドライブ事業の縮小により、前年同期と比較して減収となりましたが、赤字幅は縮小しました。

※ DICOM(ダイコム)とは、Digital Imaging and Communication in Medicine の略で、米国放射線学会 (ACR) と北米電子機器工業会 (NEMA) が開発した、CT や MRI、CR など撮影した医用画像のフォーマットと、それらの画像を扱う医用画像機器間の通信プロトコルを定義した標準規格です。

TEAC

ロードセル / デジタル指示計



TC Series / TD-260T

今後発売するロードセルには各種センサーの感度情報、校正情報をメモリーチップに内蔵し、読み書きできる世界統一規格の機能である TEDS (テッズ) 機能を標準装備。TEDS 対応指示計とのセットでより利便性の向上が実現できます。

ネットワーク対応 HDD/SD
静止画・動画レコーダー

MV-3CS-D

内視鏡や超音波診断装置などの医用画像診断装置に接続し、静止画記録に加えマルチフレームによる長時間 DICOM 動画記録にも対応。医用画像ファイリングにおいてさらなる利便性を提供しています。

ネットワーク対応通話録音システム



LA-5000

コールセンターやカスタマーサポートセンターなどの大規模回線や公共機関の緊急通話などに適したネットワーク対応型の多チャンネル通話録音 & モニタリングシステムです。

中間連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当中間期 平成24年9月30日現在	前期 平成24年3月31日現在
■ 資産の部		
流動資産	13,859	15,093
現金及び預金	5,072	4,915
受取手形及び売掛金	3,379	4,894
商品及び製品	3,178	3,050
原材料及び貯蔵品	1,270	1,244
繰延税金資産	624	661
その他	431	430
貸倒引当金	△ 97	△ 103
固定資産	4,032	4,543
有形固定資産	2,575	2,721
無形固定資産	363	402
投資その他の資産	1,093	1,419
資産合計	17,892	19,637

	当中間期 平成24年9月30日現在	前期 平成24年3月31日現在
■ 負債の部		
流動負債	8,377	8,521
支払手形及び買掛金	1,945	1,988
短期借入金	4,518	4,511
1年内返済予定の長期借入金	12	13
賞与引当金	257	270
製品保証引当金	209	247
返品調整引当金	60	99
事業構造改善引当金	53	53
その他	1,319	1,337
固定負債	7,083	7,324
負債合計	15,461	15,846
■ 純資産の部		
株主資本	7,712	8,458
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	306	306
利益剰余金	1,513	2,259
自己株式	△ 107	△ 107
その他の包括利益累計額	△ 5,281	△ 4,667
純資産合計	2,431	3,790
負債及び純資産合計	17,892	19,637

Point 1 中間連結貸借対照表

＜総資産＞ 現金及び預金が増加した一方、受取手形及び売掛金、固定資産の減少などにより、前期末に比べ1,744百万円減少しました。

＜純資産＞ 為替の円高による為替換算調整勘定の減少、中間純損失の計上による利益剰余金の減少などにより、前期末に比べ1,359百万円減少しました。

Point 2 中間連結損益計算書

＜売上高＞ 主として収益性の低いパソコン向け光ディスクドライブの販売を抑制したことなどにより、売上高が減少しました。

＜営業利益＞ 円高の進行に伴い営業損失は前中間期よりも増加しました。

Point 3 中間連結キャッシュ・フロー計算書

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞
主な内訳は、プラス要因として売上債権の減少額1,422百万円、マイナス要因としては税金等調整前中間純損失777百万円、たな卸資産の増加額340百万円であり、営業活動によるキャッシュ・フローはプラスとなりました。

中間連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当中間期	前中間期
	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 9 月 30 日	平成 23 年 4 月 1 日～ 平成 23 年 9 月 30 日
売上高	9,704	12,857
売上原価	5,810	8,461
売上総利益	3,894	4,396
販売費及び一般管理費	4,363	4,834
営業損失（△）	△ 469	△ 438
営業外収益	74	66
営業外費用	207	312
経常損失（△）	△ 601	△ 684
特別利益	0	21
特別損失	175	20
税金等調整前中間純損失（△）	△ 777	△ 684
法人税、住民税及び事業税	△ 30	△ 4
過年度法人税等	16	—
法人税等調整額	△ 17	△ 4
少数株主損益調整前中間純損失（△）	△ 746	△ 675
中間純損失（△）	△ 746	△ 675

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	当中間期	前中間期
	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 9 月 30 日	平成 23 年 4 月 1 日～ 平成 23 年 9 月 30 日
営業活動による キャッシュ・フロー	418	△ 736
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 83	68
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 19	△ 10
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 157	△ 192
現金及び現金同等物の増減額 （△は減少）	157	△ 870
現金及び現金同等物期首残高	4,181	4,593
現金及び現金同等物 中間期末残高	4,338	3,723

中間連結株主資本等変動計算書（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その 他有 価証 券 評 価 差 額 金	為替換 算 調 整 勘 定	その 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
平成 24 年 4 月 1 日 期首残高	6,000	306	2,259	△ 107	8,458	105	△ 4,773	△ 4,667	3,790
中間連結会計期間中の変動額									
中間純損失（△）			△ 746		△ 746				△ 746
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額（純額）						△ 242	△ 371	△ 613	△ 613
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 746	△ 0	△ 746	△ 242	△ 371	△ 613	△ 1,359
平成 24 年 9 月 30 日 期末残高	6,000	306	1,513	△ 107	7,712	△ 136	△ 5,144	△ 5,281	2,431

中間貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

	当中間期 平成24年9月30日現在		当中間期 平成24年9月30日現在
■ 資産の部		■ 負債の部	
流動資産	10,207	流動負債	10,355
現金及び預金	4,092	支払手形	508
受取手形	33	買掛金	1,149
売掛金	4,387	短期借入金	7,697
商品	1,252	1年内返済予定の長期借入金	12
原材料	501	賞与引当金	198
その他	778	製品保証引当金	79
貸倒引当金	△ 839	返品調整引当金	33
固定資産	12,307	その他	675
有形固定資産	1,815	固定負債	6,733
無形固定資産	42	負債合計	17,089
投資その他の資産	10,449	■ 純資産の部	
資産合計	22,514	株主資本	5,562
		資本金	6,000
		資本剰余金	306
		利益剰余金	△ 637
		自己株式	△ 107
		評価・換算差額等	△ 136
		純資産合計	5,425
		負債及び純資産合計	22,514

中間損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

	当中間期 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
売上高	7,651
売上原価	4,782
返品調整引当金戻入額	8
売上総利益	2,878
販売費及び一般管理費	3,113
営業損失 (△)	△ 234
営業外収益	62
営業外費用	127
経常損失 (△)	△ 299
特別損失	471
税引前中間純損失 (△)	△ 771
法人税、住民税及び事業税	△ 26
法人税等調整額	0
中間純損失 (△)	△ 745

中間株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金 その他 資本剰余金	利益剰余金 その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	
平成24年4月1日 期首残高	6,000	306	107	△ 107	6,307	105	6,413
中間会計期間中の変動額							
中間純損失 (△)			△ 745		△ 745		△ 745
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額 (純額)						△ 242	△ 242
中間会計期間中の変動額合計	—	—	△ 745	△ 0	△ 745	△ 242	△ 987
平成24年9月30日 期末残高	6,000	306	△ 637	△ 107	5,562	△ 136	5,425

TEAC

航空宇宙、鉄道、電力分野における大規模実験の
計測データを確実に収録

ワイドバンドデータレコーダー『WX-7000 シリーズ』を新発売

航空宇宙、鉄道、電力など大規模な実験計測が行われる分野においては、実験にかかる時間も費用も莫大なため、計測時のデータ記録の確実性、信頼性が強く求められます。これらの要求に対応し、測定データの録り逃しを防ぐための機能を多く盛り込んだ高速多チャンネル収録対応のワイドバンドデータレコーダー『WX-7000 シリーズ』を2012年12月下旬より発売開始します。

8月に米国ニューヨークで開催された Inter Noise 2012、10月に名古屋で開催された JA2012 国際航空宇宙展に出展し、発売前から国内外でのプロモーションを展開。海外へも積極的に販売を行ってまいります。



ESOTERIC



音質を革新する
マスタークロックジェネレーター
『G-01』を新発売

すべてのデジタルオーディオ機器はクロック回路を搭載し、そこで生成するクロック信号を使って回路を動作させています。

マスタークロックジェネレーター『G-01』は、対応するクロック入力端子を備えたデジタル機器（トランスポート、D/Aコンバーター、スーパーオーディオCDプレーヤーなど）に対して、外部からクロックを供給する発振器で、デジタル機器が内部で生成するクロックよりもさらに高純度なクロック信号を供給することで音質を飛躍的に向上させます。

TASCAM



興奮も、感動も身近に…
感動できるムービーは高音質
『DR-V1HD』を新発売

TASCAM ブランドから高音質リニア PCM レコーダーに動画撮影が可能なビデオカメラを搭載し、臨場感溢れる動画撮影を可能にするリニア PCM/HD ビデオレコーダー『DR-V1HD』を発売開始しました。

カメラとステレオマイクが一体となって 180 度回転する vari-angle 機構が最大の特長で、撮影時に本体（ディスプレイ）の角度を気にすることなく、向きたい方向にカメラとマイクを向けることができます。ストレスフリーの高音質動画撮影環境は、より簡単に、かつ感動的なムービーの制作を実現します。

■ 会社の概要

商号 ティアック株式会社 (TEAC CORPORATION)
 本社 〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目 47 番地
 設立 昭和 28 年 (1953 年) 8 月 26 日
 資本金 60 億円
 事業年度 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
 代表者 代表取締役社長 英 裕治
 従業員数 単体 374 名 連結 1,646 名

● 主なグループ事業内容

音響機器事業

高級 AV 機器
 一般 AV 機器
 音楽制作オーディオ機器
 特殊イヤホン機器

情報機器事業

航空機搭載用記録再生機器
 医用画像記録機器
 計測機器 (トランスデューサー、データレコーダー)
 通話録音機器
 ソリューションビジネス
 介護支援個別ケアシステム
 ディスクパブリッシング機器
 コンピューター周辺機器
 民生用および産業用製品向けドライブ

● オリジナルブランド

ティアック、タスカム、エソテリック

■ 役員

代表取締役社長	英 裕治
常務取締役	田村 正博
取締役	野村 佳秀
取締役	吉田 啓介
取締役	椎原 祥一朗
取締役	三村 智彦
取締役	前野 龍三
取締役	大舘 宗徳
常勤監査役	牧野 信明
監査役	平岡 繁
監査役	原 琢己

当社ホームページのご案内

当社は、ニュースリリースや決算発表資料などを、自社ホームページに掲載しています。

➡ 投資家向け情報



<http://www.teac.co.jp>

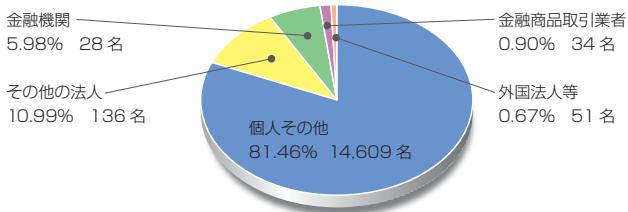
株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式の総数	289,317,134 株
株主数	14,858 名

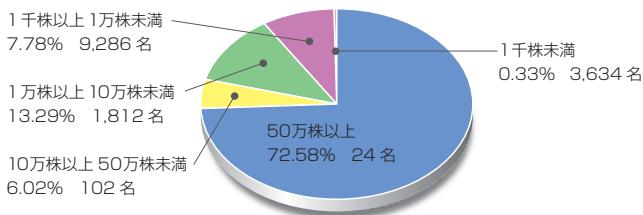
大株主（上位 10 名）

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
フェニックス・キャピタル・ パートナーズ・ワン投資事業組合	142,931	49.40
オンキヨー株式会社	28,932	10.00
ジャパン・リカバリー・ファンドⅢ	14,516	5.01
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,433	1.18
明治安田生命保険相互会社	2,201	0.76
東京海上日動火災保険株式会社	2,007	0.69
ティアック取引先持株会	1,420	0.49
株式会社損害保険ジャパン	1,342	0.46
株式会社相川プレス工業	1,240	0.42
ティアック社員持株会	1,161	0.40

株式所有者別状況



株式所有数別状況



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

配当金受領株主確定日 3月31日

単元株式数 1,000株

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告により行う。

公告掲載URL <http://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku.html>
(ただし、やむを得ない事由により、電子公告
によることができない場合は、日本経済新聞
に公告します。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ

■ 単元未満株式の買取手数料の無料化について ■

当社株式の売買単位（1単元）は1,000株であり、単元未満株式（1～999株）については証券市場にて売買できませんが、単元未満株式の買取請求（当社に売却）をしていただくことができます。

当社は平成24年12月より、単元未満株式の買取請求に係る当社手数料を無料（注）といたしましたので、本制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。

（注）無料となる手数料は当社に係る手数料です。証券会社等において取次手数料等がかかる場合もありますので、お取引の証券会社等にお問合せください。

買取制度

ご所有の単元未満株式を
当社に市場価格でご売却いただける制度です。

<例：株主様が100株をご所有の場合>



- ※ 単元未満株式を証券会社等の口座でご所有の株主様は、当該証券会社等にてお手続きください。
- ※ 単元未満株式を特別口座でご所有の株主様（証券会社等にお取引口座がない株主様）は、当社の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社、フリーダイヤル0120-232-711）までお問合せください。

- 仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 製品の色は、撮影や印刷の関係で実際の色と異なって見えることがあります。
- 記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地
TEL 042-356-9100（代表）
ホームページアドレス <http://www.teac.co.jp>

